



館長講義「石器の属性分析について」を開催

まほろんでは、福島県内の文化財行政を担当する職員等を対象にした研修を行っております。2月15日には、旧石器時代の研究者としても第一線で活躍する当館の藤本強館長が講師となり、石器についての研修を開催いたしました。

内容は、藤本館長がこれまで積み重ねてきた研究の中からお話いただくという専門的なもので、「石器の属性分析について」と題し、とくに方法論的な話を中心に行われました。県内から、石器の専門家を中心に、12名が受講しました。

当日は、館長が自ら西アジアのシリアで採集した中期～後期旧石器時代の石器のほか、まほろんに収蔵する縄文時代の石器を会場に並べ、これらを実際に手に取りながら、館長と間近に話を交えての研修となりました。

受講された方からは、実物を手にとりながらで印象に残ったなどの感想や今後こんな研修を受けたいなどの要望がよせられました。

まほろんでは、文化財を担当する職員等を対象とした専門的な研修を、今後も継続して行っていく予定です。

第1回企画展 速報展

テーマ「いにしへの隈畔人の暮らし」

会期 平成14年4月27日(土)～5月26日(日)

場所 当館特別展示室

那須の山懐に源を發し、県の中央を南北に縦断して流れる阿武隈川。全長240km近いこの大河はいにしえから、稲作や舟運などの多くの面で私たちの生活を支えてきました。しかしその一方では、洪水などの災害も引き起こし、大切な生命や財産を奪うこともありました。

阿武隈川流域の市町村では、近年、築堤や開発に伴い多くの遺跡で発掘調査が行われてきました。その結果、縄文時代や古墳時代の貴重な資料がたくさん見つかりました。今回の企画展では、それらの資料を速報展として展示します。展示資料から阿武隈川流域に生活した、いにしへの隈畔人の暮らしに思いをはせていただければ幸いです。

見つめてみよう土器の表情

縄文土器は大変個性的です。その文様や器形など土器の豊かな表情をじっくりと鑑賞してください。

いにしへの装い

遺跡から出土した土偶や埴輪を見ると、いにしえ人の装いの様子がわかることがあります。今回紹介する遺跡からも耳飾り、首飾りが出土おり、それら展示します。

いにしへの祭祀



<展示室のようす>

縄文時代のまつりに使われた土偶や石棒などの品々、古墳時代に石で作られた鏡、剣、玉などのまつりに使われた資料を展示します。

工人の技

本宮町の遺跡から石製の紡錘車の製作工程が分かる一括出土した資料を工程順に紹介します。

古墳の土器と家の土器

保原町の前方後円墳と本宮町住居跡から出土した土器セットを比較展示します。

きわだつ逸品

須恵器の逸品、円面硯、ミニチュア石棒など滅多に出土しない珍しい資料を展示します。

シリーズ復元展示

三角縁神獸鏡の復元 その4

実験成功！

実験の結果は上々でした。なにより、1枚の鋳型から最高で4枚の鏡を鋳出すことに成功したことは、実物の半分の大きさとはいえ、大きな成果でした。この同範鏡の製作を可能にしたアイデアは、鈴木さんと小田部さんから出された「二層構造」の鋳型でした。

1個の鋳型から複数の鏡を鋳出すには、鋳型が何回もの鋳込みにも耐える頑丈さを備えていなければなりません。かといって鋳型を頑丈にすると、高温の溶銅から出るガスの抜けが悪くなり、その結果、文様が不鮮明に鋳あがってしまいます。この矛盾する二つの長所だけを合わせもつ鋳型が、ガスの抜けの良い鋳型を頑丈な粘土版に貼り付けた二層構造の鋳型というわけです。

この鋳型を用いて鋳込んだ鏡には、三角縁神獸鏡の秘密にせまる成果がもう一つえられました。それは、鋳出された「ヒビ」です。

三角縁神獸鏡の特徴の一つには、鋳型についていたと思われるヒビが鋳出されているという点があります。しかし、なぜそのようなヒビができるのかという理由についてはわかっていません。二層構造の鋳型の乾燥を終えたとき、二つの層の収縮率のちがいで鋳型の表面に本物とそっくりのヒビができていました。この鋳型からヒビのついた鏡ができあがったのです。



<鋳込み作業>

いざ、復元

いよいよ会津大塚山古墳と岡山県鶴山丸山古墳の兄弟鏡の復元に移りました。準備は万端、復元にかかるみんなの意気込みも充分です。いよいよ灼熱の炉から真っ赤にとけた銅・スズ・鉛の合金がトリベに取り出され、鋳型に流し込まれます。第1回目の鋳こみは成功です。問題はこれからです。同じ鋳型からもう1面の鏡を作ることができれば、この復元は初めて成功したと言えます。はたして、2度目も成功、2面の兄弟鏡の復元は成功したのです。

まほろんに展示してある三角縁神獸鏡は、こうして復元されたのでした。

(おわり。次号からは古墳時代の刀編です。)

体験学習

まほろんひな祭り

さる3月3日の日曜日に、「まほろんひな祭り」が行われました。ひな人形は、古くは紙や木の板でつくられた「人形(ひとがた)」に起源があると言われています。病気になるまいと願ったり、けがれをおはらいするために、人形を川に流したそうです。

まほろんでは、折り紙や紙粘土を使って、ひな人形を作ってみました。当日は、小学生の女の子を中心に、25名が参加してくれました。まずは千代紙で、ひな人形を作りました。みなさん、思い思いの色でおひな様を折り、そのまわりに「ぼんぼり」や「金屏風」を飾りつけていきました。「ひなあられ」でも食べながら、のんびり作ってもらおうと考えて配って見ましたが、みんな作品を仕上げるのに夢中で、それどころではないようでした。見る見るうちに、それぞれの豪華なおひな様ができあがり



<みんなで記念撮影>

ました。紙粘土のおひな様も、決まった形のものはこちらで示しませんでした。みんな、紙粘土で好きな形を作り、それに折り紙で十二単ふうの服を着せたり、冠や烏帽子(えぼし)をかぶせたりしました。本当に、十人十色のひな人形ができました。

研修課より

古代陸奥国の考古学

(時代別研修 奈良・平安時代)

12月11～14日の4日間、福島大学の工藤雅樹先生、東北学院大学の辻秀人先生を講師にお迎えし、「古代陸奥国の考古学」と題した文化財研修を開催いたしました。

この研修は、古代の陸奥国^{むつくに}をめぐる問題について、文献と考古学の両面からせまる、という内容です。

工藤雅樹先生は、史料をもとにおもに福島県を中心とした古代史についてのお話と、文献史料の取り扱い方についてのご講義、辻秀人先生は、まほろんや県内市町村などが収蔵する遺物を実際に手に取りながら、とくに7～9世紀の土器と瓦についての遺物論をお話してくださいました。

歴史研究の第一線で活躍されている両先生のお話と、実際の文献・考古資料にふれながらの講義ということ



<研修のようす>

で、内容の充実した研修となりました。

この研修の開催にあたりましては、資料をお貸しいただくなど、下記の機関にご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

会津若松市教育委員会、いわき市教育委員会、郡山市教育委員会、郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団、白河市教育委員会、須賀川市立博物館、相馬市教育委員会、原町市教育委員会、福島市教育委員会、双葉町歴史民俗資料館(五十音順)

総務管理課より

まほろんショップのご案内

まほろんショップでは、教育普及活動の一環として、オリジナルグッズ、展示図録、体験学習のための材料の販売を行っています。

オリジナルグッズは、文化財を身近に感じていただけるよう展示物や収蔵している出土品をモデルに開発された物です。まほろんでしか手に入りません。人気商品は、勾玉を形取ったアクセサリなどです。

展示図録は、常設展示図録と企画展図録の2種類あり、展示の詳しい内容を知りたい方にお勧めです。

体験学習材料としては、「勾玉作りセット」があります。「滑石」と言うやわらかい石をサンドペーパーで削って勾玉の形にする物で、お土産としても大変好評をいただいています。来館の際には、ぜひお立ち寄りください。



<ネックレス3種>

入館者3万人達成！！

1月26日に入館者が3万人に到達しました。幸運な3万人目は、白河一小5年生の藤原将平君。藤本館長から認定証や記念品などが贈られました。

今年度の行事予定

1 実技講座(毎月第3土曜日を中心に実施)

期日	体験メニュー	体験内容	募集締切	募集人数	対象	材料費
4月20日(土)	縄文土器づくり1	小型の縄文土器をつくります。	4月10日	20名	すべて 小学生以上 小学4年生 以下は、 保護者同伴	300円
5月25日(土)	縄文土器の野焼き	4/20につくった土器の野焼きをします。	—	—		—
6月15日(土)	投槍具づくり	槍を遠くへ投げることができる道具をつくります。	5月31日	20名		100円
7月20日(土)	石器づくり	原石を割り、石器をつくります。	7月5日	20名		200円
8月17日(土)	ガラス玉づくり	ガラスの材料を溶かし、形づくっていきます。	8月2日	20名		400円
9月21日(土)	縄文土器づくり2	小型の縄文土器をつくります。	9月6日	20名		300円
10月19日(土)	土師器づくり	奈良時代の、素焼きのお椀をつくります。	10月4日	20名		150円
11月9日(土)	縄文土器・土師器の野焼き	9/21,10/19につくった土器の野焼きをします。	—	—		—
11月16日(土)	原始機織り	弥生時代の原始機で布をおります。	—	なし		無料
12月21日(土)	凧づくり	竹ひごや和紙で凧をつくります。	12月6日	20名		200円
1月18日(土)	土偶・土面づくり	粘土で「人形」や「お面」をつくります。	12月27日	20名		150円
2月15日(土)	土偶・土面の野焼き	1/18製作の土偶、土面の野焼きをします。	—	—		—
3月15日(土)	竹笛づくり	竹で横笛をつくります。	2月28日	20名		50円

2 まほろんイベント(年3回第1日曜日に実施)

期日	イベント名	イベント内容	募集締切	募集人数	対象	材料費
5月5日(日)	昔話を聞こう	堅穴住居の中で昔話を聞きます。	なし	—	どなたでも	無料
10月13日(日)	古代グルメ祭	縄文風スープを調理して試食します。	9月28日	20名	どなたでも	700円
12月1日(日)	餅つき大会	古代の畑で栽培した餅米を堅杵でつきます。	11月16日	20名	どなたでも	200円

3 まほろん探検隊(第2土曜日・日曜日に実施)

期日	体験メニュー	体験内容	募集内容
5月11日(土)・12日(日)	縄文土器づくり1	小型の縄文土器をつくります。	1 小学5年生～中学3年生 2 定員15名 3 継続して半年間活動できること 4 申し込みは4/20まで 5 材料費1,500円
6月8日(土)・9日(日)	縄文土器づくり2	大型の縄文土器づくりに挑戦します。	
7月13日(土)	縄文土器野焼き	5月・6月に製作した土器を焼きます。	
8月10日(土)	石器づくり1	原石から打ちがして石器をつくります。	
9月14日(土)	石器づくり2	鹿の角で石をたたきながら石器をつくります。	
10月5日(土)・6日(日)	縄文料理とお泊まり会	堅穴住居で料理をつくり、体験ひろばでキャンプをします。(宿泊は希望者のみ)	

4 まほろん文化財講座(年4回第4土曜日を中心に実施)

期日	講座名	講師	募集締切	募集人数	対象	入場料
7月27日(土)	「旧石器時代のお話し」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料
1月25日(土)	「中・近世のお話し」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料
2月22日(土)	「木製品のお話し」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料
3月15日(土)	「弥生時代のお話し」	当館学芸員	先着順	60名	どなたでも	無料

5 館長講演会(年6回第4土曜日を中心に実施)

期日	講演題	募集締切	募集人数	対象	入場料
4月27日(土)	「探る、狩る、漁る暮らし」—旧石器文化・縄文文化—	先着順	60名	どなたでも	無料
5月18日(土)	「コメ作りからクニへ」—弥生文化・古墳文化—	先着順	60名	どなたでも	無料
6月22日(土)	「いろいろな社会の展開」—古代・中世・近世の文化—	先着順	60名	どなたでも	無料
9月28日(土)	「狩と採集の暮らし」—旧石器文化—	先着順	60名	どなたでも	無料
10月26日(土)	「農耕と牧畜の生活」—新石器文化—	先着順	60名	どなたでも	無料
11月23日(土)	「都市の誕生、それからの国へ」—金属器文化—	先着順	60名	どなたでも	無料

館長講演会の前期3回の大テーマは、「考古学からみた日本の歴史」、後期3回の大テーマは、「考古学からみた世界の歴史」です。

※各行事への申し込みは、住所・氏名・年齢・電話番号・イベント名を往復はがきにご記入の上、郵送くださるか、または、来館時に所定の申込書にご記入ください。(ご家族での申し込みは1枚のはがきに連記でもかまいません。)

まほろんからのお知らせ

「後期おでかけまほろん」募集

好評のおでかけまほろんの本年度前期分(4月～7月実施)の募集に多数ご応募いただきありがとうございます。引き続き後期(9月～2月)実施分4団体の募集を行っています。詳しくは、まほろんのホームページをご覧ください。

学校・公民館など団体での申し込みをお待ちしています。

なお、前期は次の3団体に決まりました。

- ・ 喜多方市立慶徳小学校
- ・ 福島市立佐原小学校
- ・ 南郷村立南郷第一小学校

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料(体験学習をによっては、材料費が必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。

